

2026 年度

事業計画書

公益財団法人 宇宙科学振興会

2026 年度事業計画書

2026 年度は当財団が公益財団法人に移行して 15 年目に入る。現在保有している投資有価証券から想定される 2026 年度の基本財産運用益は約 582 万円程度となり、2025 年度の基本財産運用益から約 412 万円増加する。会費収入が例年と同じく 250 万円であるとすれば、2026 年度の経常収益は 832 万円程度と予測される。一方経常支出は例年と同規模の 1,133 万円程度と想定され、2026 年度の経常収支は約 301 万円程度の赤字となる。このため 2026 年度には基本財産を赤字額に対し一定の余裕を見込める程度の額だけ取り崩して運営資金化することを予定する。この基本財産取り崩しについては、すでに 2025 年度の理事会及び評議員会で決議・承認されている。実際の取り崩し額については、年度後半で財務状況を勘案した上で判断する。この取り崩し措置により、2026 年度においても、移行時に公益目的事業として申請した、①宇宙科学奨励賞事業、②国際学会出席旅費支援事業、③国際学会開催支援事業、を例年並みの規模で継続して実施することができる。2020 年度以降コロナ禍の影響を受けて両支援とも申請数が大きく減少したが、最近は徐々に回復傾向となっている。2026 年度においても同様の傾向が続くものと想定される。

宇宙科学に関する知識の普及・啓蒙活動に関する他団体が中心の事業への支援は、財団管理運営に関わる法人会計の範囲内で継続する。2026 年度は隔年開催の「宇宙技術および科学の国際シンポジウム」を除き、例年実施している 5 団体へ例年と同じレベルの支援を行うことを予定する。

I. 公益目的事業

(1) 宇宙科学奨励賞事業

宇宙科学奨励賞事業は、宇宙理学・宇宙工学の分野で優れた研究業績をあげ、将来宇宙科学を推進する中心となるものと期待される若い研究者を顕彰し、宇宙科学分野の進展に寄与することを目的としている。本事業では、宇宙科学各分野の研究者より、37 歳以下で最近著しい成果を挙げている若手研究者を国内で広く推薦していただき、宇宙科学各分野の有識者で構成される選考委員会により候補者の選考を行い、原則として宇宙工学関係から 1 名、宇宙理学関係から 1 名、合計 2 名の候補者を選出する。これに基づき理事会が受賞者決定の決議を行う。宇宙科学奨励賞候補者の推薦依頼は、当財団の公式ホームページに公示すると共に関係学会の学会誌または学会ホームページに推薦依頼の掲示をお願いする。授賞者には表彰式において本賞（賞状と表彰楯）と共に副賞を贈呈する。副賞賞金は 30 万円/人としている。表彰式に引き続いて祝賀会をとり行う。

2026 年度は 7 月中に各界への推薦依頼を行い、10 月 31 日推薦締め切りとし、選考委員会による審査選考は 11 月～12 月の間に行う。選考の結果については、2027 年 1 月中に受賞者本人と推薦者他関係者に通知すると共に財団の公式ホームページに発表する。その後 3 月には、当該年度の宇宙科学奨励賞受賞者の表彰と受賞記念講演を行う。受賞記念講演の内容はホームページに公開するとともに、その対象となった研究の概要は宇宙科学研究所の I S A S ニュースに投稿していただく。

(2) 国際学会出席旅費支援事業

国際学会出席旅費支援事業では、宇宙理学及び宇宙工学に関する独創的・先駆的な研究活動を行っている 35 歳以下の優れた若手研究者に対して、海外で開催される国際学会に出席する費用の助成を行う。若手に加えて、大学及び研究機関などを退職後も、活発な研究を行っておられるシニアの研究者の方に対しても助成を行う。年度の上半期（4月～9月）開催の国際学会に出席・論文発表する者には応募申請の締め切りを同年（前年度に該当）2月末日、年度の下半期（10月～翌年3月）開催の国際学会に出席・論文発表する者には応募申請の締め切りを8月31日としている。応募者の旅費支援は当財団の研究助成審査委員会において採否が審査され、理事長は理事会の委任により採択者を決裁する。審査の結果採択された助成対象者には、本人に対して渡航費として助成金の支給を行い、その発表論文テーマ、国際会議名、開催場所、日時等の情報を含めて財団のホームページに公表する。渡航後には国際会議で発表の成果についての報告書を提出願い、それをホームページに掲載する。この事業に対する2026年度の支払助成金総額は別表1の通り210万円とする。公募においては助成金額を1件当たり10～30万円としている。従って、2026年度には前期、後期併せて10件前後の国際会議出席旅費支援が可能である。

(3) 国際学会開催支援事業

国際学会開催支援事業では、宇宙科学分野（宇宙理学、宇宙工学を含む）の国際学会・研究集会の日本国内での開催を主催する組織・団体に対する支援を行う。全国の研究機関・大学において理論分野等も含めて宇宙理工学に関する国際学会・研究集会を主催する場合を対象とした公募型事業として実施する。年度の上半期（4月～9月）開催分の応募申請の締め切りを同年（前年度に該当）2月末日、年度の下半期（10月～3月）開催分の応募申請の締め切りを8月31日としている。国際学会開催支援への応募は当財団の研究助成審査委員会において採否が審査される。助成額は研究助成審査委員会において、申請された日本国内における国際学会開催の学術的意義、分野への波及効果、助成金の使途の有効性を評価したうえで査定が行われ、理事長は理事会の委任により採択を決裁する。審査の結果採択された助成対象国際会議は、その開催代表者、国際会議名、開催場所、日時等の情報が財団のホームページで公開される。また、当財団の支援を受けた国際会議についてはその旨を報告書や論文収録に記載いただき1部寄贈いただくとともに、会議の様子、成果をまとめた報告書を提出いただき、これをホームページに掲載・公開する。この事業に対する2026年度の支払助成金総額は別表1の通り100万円とする。1件当たりの助成額は開催する国際学会の規模に応じて20万円～50万円としている。従って、2026年度には前期、後期併せて3～4件の国際学会開催支援が可能である。

表 1. 2026 年度 公益目的事業助成金等 予算作成額

助成内容	(参考) 2025 年度 予算額	(参考) 2025 年度実績	2026 年度 予算作成額
宇宙科学奨励賞 賞金	600,000	600,000	600,000
国際学会出席旅費支援	2,100,000	1,650,000	2,100,000
国際学会開催支援	1,000,000	1,400,000	1,000,000

II. 財団の管理運営等法人会計関係

宇宙科学に関する一般支援助成では、他組織・団体が主催する事業・イベントに対し支援を行う。支援対象は理事会傘下の運営委員会で審議して選定し、理事会で承認する。助成金を提供した場合は、実施の報告書あるいはそれに相当する書類の提出をお願いしている。

2026 年度は隔年開催の「宇宙技術および科学の国際シンポジウム」を除き、別表 2 の通り、5 団体へ例年と同じレベルの支援を行うことを予定する。

表 2. 2026 年度 宇宙科学に関する一般支援助成（単位 円）

助成内容	(参考) 2025 年度予算額	(参考) 2025 年度実績額	2026 年度 予算作成額
1 一般財団法人日本宇宙フォーラム/ 衛星設計コンテスト協賛金	120,000	120,000	120,000
2 一般社団法人日本航空宇宙学会/ 宇宙技術および科学の国際シンポジウ ム賛助金(隔年開催)	100,000	100,000	0
3 JAXA/相模原キャンパス特別公開共 催(スタンプラリー景品代)	200,000	199,566	200,000
4 特定非営利活動法人日本モデルロ ケット協会/ モデルロケット全国大会助成金	200,000	200,000 未定	200,000
5 一般社団法人あきた宇宙コンソーシ アム/能代宇宙イベント協賛金	100,000	100,000	100,000
6 多摩六都科学館/サイエンスレクチャ ー共催(宇宙科学奨励賞受賞者派 遣旅費)	50,000	50,000 未定	50,000
合計	770,000	519,566	670,000

なお、公益目的事業および財団の管理運営に必要な、職員給与、会議費、交通費、什器備品消耗品購入費、賃借料、支払手数料等、一般的な経常費については 2025 年度実績に準じて予算計上する。